

令和4年度 花壇コンクール講評

今年もコロナ禍での花壇づくりとなり、地域や職場、学校園などで人との交流や関わりが制限される中、皆様の努力がみのりすばらしいコンクールとなりました。

今年の参加団体は148団体で、提出していただいた応募用紙を元に4月5日6日の両日にコメントおよび写真による一次審査を行い、特別賞15団体、優等12団体、入選23団体を選びました。そして、4月14日に現地審査による二次審査で実際の花壇を拝見させていただき賞を決定しました。

今回のテーマは「豊かな明石の海」です。今年の11月に「全国豊かな海づくり大会」が、明石市で開催されることを受けてこのテーマが選ばれました。海のまち明石らしいテーマに、タイやタコ、ウミガメ、波、明石海峡大橋など様々な「豊かな明石の海」がみごとに花壇で表現されていました。

今年の冬は平年より寒い日が多く、花の成長が心配されました。しかし、皆様から届いた写真はどれも色鮮やかなもので安心しました。

なかなか通常の活動ができず交流の場が限られ、地域との連携が取りにくいという声が多く寄せられました。人数を制限しながらの作業の中、花壇づくりに励んで下さり本当にありがとうございました。

今回の一番の特徴は立体的な花壇が多くみられたことです。ハンギングバスケットのように側面まで花を植えたものや、花壇全体を山のようにしたり、板やレンガを使って高さを出すなど、非常に技術力を感じる見ごたえのある花壇が多くありました。

また 今回のテーマ「豊かな明石の海」をイメージした時に、海だけでなくそこにそそぐ川、その先の山にまで想いをはせるなど、豊かな発想がデザインに生かされていました。

今、明石は全国戻りたい街ランキングで一位になり、住みたい街としても名が上がるようになるなどとても注目されているまちです。皆さんが作る花壇は、そこに集まる人が笑顔になり、心に安らぎを与え、そしてまちの魅力を高めています。まさに皆さんの花壇は、SDGSの目標そのものです。

この花壇があるから、明石に住んでよかった。この花壇があるからこのまちに住み続けたいそう思っただけだと確信しています。

来年は、コロナが収束し安心した生活が戻り、人々の交流がふえる中見応えある花壇が見られますことを願っています。

多くの方々のご尽力により、すばらしい花壇コンクールとなりましたことを心から感謝申し上げます。

令和4年5月26日
審査委員長 來住富士子